

恋せよ乙女(笑)

帰宅部ガチ勢φ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

自分が書いてて楽しいと思える物を書きます。

ご感想お待ちしております。

p.s. 活動報告でどんな女性を出すといいかアンケート中。メッセージでも可

月1更新

目次

プロローグ	1
第一話 初めての／／／	4
(前編)	

プロローグ

「過半数の賛成が集まりましたので只今より、女性の恋愛の義務化を制定します。」

第45条 女性は15才以上から、恋愛を義務化する。

今、新たな条令がここに生まれた：

この国では、女性の恋愛が少なくなり、その結果、人口の急激な減少が問題となっていた。

男性は、恋愛に対して積極的で、この国で肉食系と呼ばれる男性は、実に男性人口の99%である。

がしかし、女性は、恋愛に対して消極的で、絶食系と呼ばれる女性は、実に女性人口の99%だ。

つまり肉食系と呼ばれる女性は人口の中でごくわずか、1%かそれ以下である。

この事から、恋愛の義務化を求める声は、男性から数多く上がっていた、女性にとっては、とんでもないことだ。

が、残念ながらこの国の議員の80%は男性であるので、はんば強引にこの条令が制定された。

この条令の制定から、300年以上経った今：肉食系女子等の積極的な女性は急激に増加し、

絶食系等の消極的な女性は急激に減少してきていた。

だが、何故か何故か、男性は女性の真反対、つまり肉食系の男性等の積極的な男性は急激に減少し、

絶食系等の消極的な男性は、急激に増加していた：

とても不思議だが、何故か男性達は、肉食系は肉食系、絶食系は絶食系、などと、同じ性格の仲間たちで、

一緒に集まって住むようになっていた：

そんな中、とある男は、楽に稼げる方法を思い付いた、それは、お金を貰い、その女性の好みのタイプの男性がまとまって住んでいる所を紹介する仕事だ。少し：いや、かなり汚いが、このご時世では確実に、そして簡単に

儲けられる仕事だ。普通の人間なら、良心が痛むレベルの汚い仕事だ。

汚い、流石汚い。

そして、遂にその男は、仕事の準備を始め出した。仕事は、小さなプレハブ小屋を自分で作って行う事にした。

『紹介屋』と銘打って：

男は面倒臭がりでもあったが、金が絡むと、人間とは思えない程の能力を発揮する。

金が絡むこの『紹介屋』という仕事は、早く始めれば始める程儲けが増える物だ。

男は、早くプレハブ小屋を作って始めたいが、プレハブ小屋を作るには少なくとも1週間以上はかかる。

そこで男は自宅を改造して自宅を、(自宅兼紹介屋)にした、これで明日から商売が始められる。

男は隠しきれない期待を胸に、料金プラン等の詳細を決めて行った

『紹介屋』

当店は、女性の方々が、自分に合った男性の発見をサポートします。

女性の方々それぞれに合ったタイプの男性を教えてくださいからその男性が住んでいる所を調査します。

住んでいる所は、時代とともに移り変わる物だからです。

当店の料金は後払い制です。自分の好みの男性が見つからなかったら料金をお支払頂かなくても結構です。

しあわせ
っしらか
かたいい
りをなを
と楽が作
好しらろ
みく迎う

楽しく迎えましょう！

これがこの店のスローガンです。しっかりと好み男性と明日を

の男性と
えられらる

第一話 初めての／／／（前編）

さて、今日は待ちに待った我が店の開店だ。どんなお客様が来るのかな？

なんて考えたけど少し考えたら直ぐにわかる。

肉食系の女性は自分からグイグイ行って直ぐに恋愛をはじめるか…：

来店するとしたら条令の年になるけども、恋愛が出来ない、みたいな草食系や絶食系のごく一部の女性だろう。

そのごく一部の女性を対象にこの店を営んでいくことになるはずだ。

開店は午前10時だけど開店までまだ時間があるから店内と店外を清潔感溢れさせて女性が入りやすい見た目にしよう。

思い立ったら直ぐにやるのが俺の良いところだなあ。さ！まずは店外からだ！ この限られた時間で如何に清潔感を溢れさせるか！それが問題だ。とりあえずは店の周りからだな！

《キングクリムゾン！》

ふー、店の掃除が終わったな…そろそろ開店の時間だ。よし！ドアの掛け木を「OPEN」にして…と。

＜開店＞

「コンコン」店のドアがノックされた。お客様だろうか。とりあえず玄関まで行こう。

む、可愛い少女だ…お客様か？「ごめんください、ここが紹介屋さんですか？」お！お客様だったみたいだ。

「いらっしやいませ！本日は当店にお越し頂き誠に有難うございます。」これはテンプレだな。

「本日はどの様なご用件で来店されましたか？」分かりきったことだが一応形式上聞いておくのが定石だろう。

「えっと…私は、来月で15才になるんですけど…」ふむふむ、15才になるけど恋愛が出来ないから仕方なくこの店に来たって所か！「ふむ、それで15才になるまでに恋愛をしないとイケないけど好み

の男性が近くに居ないからこの店に来た…って所でしようか？」反応を伺ってみる：「はい…その通りです。」やはり凶星だったようだ。

それで、どんな男性を探してるんだ…？「それで、どの様な男性をお探しのですか？」初めてののお客様だからやはり緊張するな…「それは…えつと／＼」言いづらいみたいだ。そんな方にはこれ、”記入用紙” テツテレー

まあ…直で伝えて貰っても書いてもらうことは開店前に決めたら確定何だが…

「それではこちらの記入用紙にお名前・ご年齢・生年月日・電話番号・お探しの男性をご記入下さい。」

む…やはり敬語で喋るのは苦手だな、今のところはセーフだがつつい友達感覚で敬語を使わずに喋ってしまうかもしれないな。気を付けよう…こんなことを考えている内に記入が終わったようだな。

「記入が済んだようですので、用紙をこちらにお渡し下さい。はい、有難うございます。」

よし、記入してもらったし…今日はお帰り頂こう…

「当店ではご注文を頂いてから調査をしますので、今日はお帰り頂いて結構です。調査が終わりましたらお電話いたしますので。」

* * * * *
* * * * *

ふくお客様が帰った…あーやっぱり敬語は疲れるな、肩が凝る。よし、今日は休んで明日の調査に備えよう！

「OPEN」を裏返しに…と。今日はこれで閉店だ！